

岩崎記代子と「赤い鳥」と「夢みらい」

「赤い鳥」と「夢みらい」は、太宰府市や福岡市にある岩崎記代子さんの歌の教室のグループで、それぞれ月2回のレッスンをしています。

グループは、会場参加型コンサート“みんなであうたいましよう”、健康と人との交流をテーマに、自らの生涯学習はもちろん、福岡市及びその周辺、近隣県外などで、芸術祭・文化祭・社会福祉などのコンサートを精力的に実施し、地域貢献のため、制作した地域の歌を広める活動を行っています。



<活動内容>

福祉・慰問・芸術祭・生涯学習などのコンサートで、太宰府の歌を広めて、太宰府の魅力を発信し続けます。

また、岩崎記代子音楽記念館では、今までの活動の記録を展示し、訪れた人たちに曲を演奏しています。

みんなであうたいましよう♪
岩崎記代子音楽記念館
太宰府市観世音寺5丁目2-51
TEL 092-923-7881
※来館希望の方は、事前予約が必要です。



太宰府市民遺産とは・・・

市民の一人ひとりが、大切に思うモノ・コト(文化遺産)。これを将来に伝えたいと思う物語と、それを守り育てる活動に対して、多くの市民が太宰府にとって大切だと納得したものです。



太宰府市民遺産

第13号

太宰府をうたう♪全11曲

(作曲・唄 岩崎記代子)



太宰府をうたう♪全11曲

(作曲・唄 岩崎記代子)

太宰府市民遺産：第13号

認定：平成30年2月3日

景観・市民遺産育成団体：

岩崎記代子と「赤い鳥」と「夢みらい」

発行：太宰府市景観・市民遺産会議

発行日：平成30年3月31日

太宰府市民遺産ロゴマーク

<http://市民遺産.jp>



“うた”の魅力

岩崎記代子さんが太宰府をテーマに作曲し、唄うきっかけとなったのは、戒壇院復興活動です。平成5(1993)年に詩人の平山芳江氏より「寂光に佇ちて」という詞をうけて、曲を制作したのが最初です。新聞各社、テレビニュースなど多くのメディアにとり上げられ、募金活動は順調に進みました。そして、太宰府に魅力を感じた岩崎さんは、本格的に太宰府をテーマとした作品を創るため、平成12(2000)年に観世音寺のほど近くに居を移し現在に至っています。



“太宰府をうたう♪全11曲”は、作詞家たちによって作られた太宰府にちなんだ詞に、岩崎さんの曲と歌声をのせることで作品ができあがっています。

岩崎さんいわく「太宰府は、様々な“音”に満ち溢れている」とのこと。政庁跡に立てば古代からの幾多の思いが、また、太宰府天満宮や榎社に立てば天神さまの思いが、岩崎さんをかりたて、湧き出した音により、作品が創り出されています。岩崎さんが創り出した“音”には、太宰府の四季のような様々な“色”があり、11曲に語られている太宰府の歴史や風景が、聴く人の体に自然に溶け込むものとなり、太宰府に馴染みがない人たちにも聞きやすいメロディとなっています。そして、その音色に込められた岩崎さんの魂により、この11曲は、さらに聴衆を魅了するものとなっています。

この11曲は、完成後多くのコンサートや講演、講座の中で歌いつづけられています。そして、聴衆に感動を与え、年月と共に作品そのものが実績を積み重ね、さらに大きな力を持つようになりました。このように愛され歌い継がれる“音”は、太宰府の深い歴史を伝え、太宰府の魅力を発信する力となり、さらに聴く人たちに大きな力を与えるものとなっています。

11曲の作品と作曲への思い

“寂光に佇ちて”

作詞: 平山芳江 作曲・唄: 岩崎記代子(1993年作)

平山氏の深い詩と向きあいながら、私の音を紡ぐ作業でした。それは各地の講演でも反響が大きいものでした。

“夢しのぶ”

作詞: 眞はじめ 作曲・唄: 岩崎記代子(1994年作)

太宰府天満宮参道の賑いの中、天神さまを親つての人々の声声が音になって溢れています。



“観世音寺を訪ねて”

作詞: 村上寿浩 作曲・唄: 岩崎記代子(2002年作)

村上氏の作品を見た時、私の中ではオペラのアリアが浮かんで来ました。心の奥までを引き出してくれる様な、あの観世音寺の空気は一気に美しい音の世界へと私をのみこんでいってしまいます。



“菅公様”

作詞: 岡崎ふくみ 作曲・唄: 岩崎記代子(2003年作)

この歌は、大分県九重町にある菅原天満宮に奉納しました。イントロと後奏は、その祭りの笛の音を表現しています。

“雪と雷さま”

作詞: 平山芳江 作曲・唄: 岩崎記代子(2004年作)

天神さまを、童謡の世界へのご案内。しかも単なる童謡にとどまらず、そのピアノ伴奏にも工夫、格調高く表現してみました。



“藍染川物語”

作詞: 岡崎ふくみ 作曲・唄: 岩崎記代子(2004年作)

演歌の詩人・岡崎ふくみ氏のその言葉の妙に、私もいつの間にかひきづられ音を紡いでいった作品です。

“都府楼址”

作詞: 村上寿浩 作曲・唄: 岩崎記代子(2004年作)

古へからの幾多の思いが、なぜか私をかりたてます。村上氏の“詞(ことば)”をどう音にするのか、歴史あるこの地をテーマに極力音数(おとかず)を少なくしての構成、その少ない音と音の間から深い歴史、古へ人の思いが伝われば…との思いで作品創りをしました。



“天神様の12ヵ月”

作詞: 村上寿浩 作曲・唄: 岩崎記代子(2004年作)

村上寿浩氏は天神様の12ヵ月の行事を、四季の美しさもちりばめながら作詞。曲は、誰もが歌いやすく、また、踊りやすくという思いで作曲しました。



“風は友達 -太宰府バージョン-”

作詞: 平山芳江 作曲・唄: 岩崎記代子(2006年作)

みんなであたきましょう♪の思いがつづられた曲です。

“雪の観世音寺”

作詞: 舟木颯秋 作曲・唄: 岩崎記代子(2008年作)

詩人舟木颯秋氏の言葉の巧みさが、私の持つ音を上手にひき出してくれました。



“道真公”

作詞: 岡崎ふくみ 作曲・唄: 岩崎記代子(2008年作)

詩人と天満宮との関わりを知り、音づくりに一層のふくみをもたせることとなったように思います。



作曲家・声楽家“岩崎記代子”

岩崎記代子さんは、太宰府市在住の作曲家・声楽家で、日本童謡協会会員、福岡文化連盟会員でもあり、「日本の作曲家」「日本の演奏家」人名事典に掲載されています。

太宰府のうたをはじめ、現在までに約350におよぶ曲を作られています。

また、大分県玖珠町メルヘン大使、八女市観光大使にも任命されるなど各地で活躍され、平成29年には太宰府市民文化賞を受けられました。

